

令和4年度公社等点検評価表

(一次点検評価・二次点検評価)

公社等名	一般財団法人ふくしま医療機器産業推進機構
所管部局	商工労働部
担当課	次世代産業課医療関連産業集積推進室

《評価資料》

1	公社等点検評価表	-----	1
2	付表1(概要)	-----	2-1
3	付表2(実施事業)	-----	3-1
4	付表3(経営状況)	-----	4-1
5	付表4(経営分析等)	-----	5-1
6	付表5(組織人員体制)	-----	6-1
7	付表6(県関与の状況)	-----	7-1
8	別紙1(県の財政的関与(支援)の内訳)	-----	8-1
9	別紙2(役員等の状況)	-----	9-1

〔一次点検評価：公社等の自己点検〕

視点1：計画性（マネジメントサイクルの確立）

公社等経営の理念・目標・方針などが、各種計画等に反映され、事業の企画立案、実施、評価、改善が行われているかという、経営マネジメントサイクルの視点

1 マネジメントサイクルの確立

経営計画等の具体的な成果目標とこれまでの評価、事業目標とその実績（付表2）の評価

- ふくしま医療機器開発支援センター（以下「センター」という。）の指定管理者としての取組や県等からの各種受託事業の実施を通じて、ものづくり企業の医療機器関連産業への新規参入や販路拡大、医療機器の安全性評価を通じた医療機器の開発から事業化までの一体的な支援等に取り組んだ。

2021年度から第2期目の指定管理をスタートさせ、常勤の副理事長職を新設し、きめ細かな組織マネジメントができる体制を整えた。

- センターの運営については、「センターの認知度向上」、「各認証の維持更新」、「プロ意識の醸成」、「新たなニーズを獲得」の4つの事業方針を掲げて、更なるセンターの利用促進と経営安定化を目指した。

2021年度の売上については、前年度より53,484千円減少し、150,825千円となった。緊急事態宣言により生物試験での県外企業の往来ができず試験数が大幅に減少した一方で、新型コロナウイルスの環境下により、EMC試験（※）は県内主要メーカーが県外から県内に委託発注を切り替えたことで試験数が大幅に増加し、2021年度売上目標を達成した。また、トレーニング機会を失った医師や看護師などの医療従事者に対する医療トレーニング需要に対する受入体制を整備し、前年度と比較して2倍を超える医療・看護トレーニングの受注を実現した。新型コロナウイルスの影響を受けたことにより、売上額は目標の約66%となった。※電磁波により、電気機器、電子機器が誤動作しないか確認する試験

2 マネジメントサイクルにおける環境変化・住民ニーズの把握方法

- 経済産業省や厚生労働省、郡山市の職員が評議員になっているほか、定期的に経済産業省の職員及び福島県立医科大学の医師等と情報共有の場を設けることにより、最新の医療機器産業の動向等を把握した。

- また、福島県医療福祉機器産業協議会やメディカルクリエーションふくしま、各種コンサルティング活動等を通じて、医療関連企業等から直接声を聞くことで、医療機器関連産業のニーズを把握し、各種事業の運営に反映させた。

- さらには、初めて一般市民向けに医療機器わくわく体験デーを開催し、子供から高齢者まで700名を超える来場者があり、医療や医療機器に関するアンケートを実施するなど、住民のニーズの把握にも取り組んだ。

視点2：経済性・効率性

事業の収支バランスと採算性・収益性の視点

1 経営状況（付表3）及び経営分析等（付表4）についての評価

- 2021年度のセンター会計については、指定管理料の527,071千円と、収入の150,825千円を加えて全体収入は677,896千円となった。一方、経費の抑制等によって支出は628,255千円となり、収支差額は49,641千円となった。

- 機構全体の2021年度収支は106,579千円の黒字となり、期末の正味財産残高は2020年度からの繰越金に加え、172,303千円となった。

- 経費削減については、試験用消耗品等の削減や試験機器の校正回数の見直しに加え、随意契約から一般競争入札への契約への見直しを図るなどの取組を実施した。

- なお、当期収入全体に占める県からの補助金や委託料等の割合は85.0%と高い水準となっているが、事業収益等が前年度と比較して53,136千円と大幅に減少したことにより、5.8ポイント悪化した（2020年度は79.2%）。

2 サービス向上策の評価

- コロナ禍においてトレーニング機会を失った医師や看護師などの医療従事者に対する医療トレーニング需要の高まりを的確に捉え、いち早くセンター組織に新たにトレーニンググループを設置した。
- 県内の高校生を対象に実施した医療のしごと体験デーの開催や、県立高校の学校単位でのフィールドワークも複数実施し、医療や医療機器に関心を寄せる機会を創出した。
また、医療機器わくわく体験デーでは、センターの特色を生かした様々な体験を通して医療や医療機器を身近に感じるイベントとし、子供から高齢者まで700名を超える来場者があった。
- センター正面玄関のレイアウト変更、ウェルカムボード設置のほか、研修室等にWiFiを整備し、顧客の利便性を向上させた。

〔二次点検評価：左に対する所管部局としての評価〕

視点1：計画性（マネジメントサイクルの確立）

公社等経営の理念・目標・方針などが、各種計画等に反映され、事業の企画立案、実施、評価、改善が行われているかという、経営マネジメントサイクルの視点

1 マネジメントサイクルの確立

当法人は、医療機器に関する安全性評価と事業化支援並びに医療機器に関する医療従事者等への研修等を通じて、安全で信頼される医療機器の開発及び適正かつ安全な使用の促進を図り、もって医療の安全確保と医療機器産業の発展へ貢献するために設立された法人であり、県と一体となって各種事業を展開している。

センターの運営については、「センターの認知度向上」、「各認証の維持更新」、「プロ意識の醸成」、「新たなニーズを獲得」の4つの事業方針を掲げて取り組んでおり、交流促進や取引支援、コンサルティング、人材育成、事業化支援などを受託し、医療関連産業の集積、振興につながる多くの事業を実施している。新型コロナウイルスの環境下で、医療従事者に対する医療トレーニングの需要に対する受入体制を整備し、前年度と比較して2倍を超える医療・看護トレーニングの受注を実現している。

なお、県の補助を受けて実施したメディカルクリエーションふくしまについては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和2年度に引き続きオンライン展示会として開催した。時間や場所の制約を受けずに参加できるオンラインのメリットを活かし、遠方の企業・団体等も含め、新たな顧客とのつながりをつくることで販路拡大を進めた。当該展示会は出展企業のマッチングや連携等につながる場として、県内の医療関連産業の集積に寄与している。

2 マネジメントサイクルにおける環境変化・住民ニーズの把握方法

評議員や理事に就任している国や医療機器関係団体、学会関係者の他、福島県立医科大学と連携しながら、最新の医療機器産業の動向や情報の把握に努めている。

医療福祉機器産業協議会やメディカルクリエーションふくしまなどを通じ、直接企業等からの意見を聞き、ニーズの把握とセンターの運営につなげている。

令和3年度に初めて県民に一般公開したイベント「医療機器わくわく体験デー」を開催し、住民に対するセンターの認知度向上を図り、住民からの意見等を聞く機会を作るなど、住民ニーズの把握にも努めている。

視点2：経済性・効率性

事業の収支バランスと採算性・収益性の視点

1 経営状況（付表3）及び経営分析等（付表4）についての評価

当法人が県内の医療機器産業の発展を目的に設立された経緯もあることから、医療機器産業の振興、発展に関する事業を県等から受託しており、現在の収入は、県からの補助金や委託事業が大部分を占めているため、令和3年度の県からの補助金や委託料等の割合は83.9%と高い水準となっている。

令和3年度のふくしま医療機器開発支援センターの指定管理委託料は、人件費や試験消耗品費等の経費の抑制等に努めたことにより、収支差額は49,641千円であった。

法人全体としての収支差額は、106,579千円のプラスとなっており、また令和2年度からの繰越金により、正味財産期末残高は172,303千円のプラスとなった。

令和4年度には、経営戦略室を設置し、経営体制の強化にも取り組んでいる。

2 サービス向上策の評価

コロナ禍においてトレーニング機会を失った医師や看護師などの医療従事者に対する医療トレーニング需要の高まりを的確に捉え、いち早くセンター組織に新たにトレーニンググループを設置し、2020年度と比較して2倍を超える医療・看護トレーニングの受注を実現している。

県内の高校生を対象に実施した医療のしごと体験デーの開催や、県内高校の学校単位でのフィールドワークも実施し、高校生に医療や医療機器等の興味、関心を高める機会を創出した。

また、開所以来初めてとなる一般市民向けに医療機器わくわく体験デーを開催し、センターの特色を生かした様々な体験を通して医療や医療機器を身近に感じるイベントを実施し、センター認知度向上にも積極的に取り組んでいる。

なお、利用者が来場しやすいセンター正面玄関のレイアウト変更等のほか、研修室等にWiFiを整備し、通信環境を整備するなど、利便性が向上に取り組んでいる。

〔一次点検評価：公社等の自己点検〕

視点3：課題への対応状況

共通課題1：東日本大震災からの復旧状況

原子力発電所事故に伴う損失・損害賠償請求の状況

- 震災後の新設法人のため、特になし。

個別課題： 各種認証の確実な取得

広報・営業活動の強化

研修及び教育訓練の継続的かつ体系的な実施

- 認証取得については、EMCや電気安全性、化学分析試験等の分野で必要となるISO/IEC 17025、動物愛護・福祉の観点から必要なAAALACの更新審査を受審して、年度内に全て更新した。また、医療機器GLPの認証については、適合試験区分を全身毒性試験、血液適合性試験に拡大して審査を受け、2022年5月19日付で更新となった。

- 広報・営業活動の強化については、報道機関訪問や報道機関向けのセンター見学会の実施など、県内報道機関向けのメディア戦略を積極的に実施したほか、学生向けの見学会や一般市民向けオープンイベントの開催など、センター認知の機会創出に積極的に取り組んだ。

また、開所以来初めてとなるアニュアルレポートの制作に着手した。

- 職員の研修及び教育訓練については、毎週1回程度GLP省令研修を計画的に進めたほか、外部講師の招へいや毎月1回のセンター長講話など、コミュニケーションの重要性や組織強化など協働意識を醸成する人財育成を実施した。

〔二次点検評価：左に対する所管部局としての評価〕

<p>視点 3 : 課題への対応状況</p>
<p>共通課題 1 : 東日本大震災からの復旧状況 原子力発電所事故に伴う損失・損害賠償請求の状況</p>
<p>震災後の新設法人のため、特になし。</p>
<p>個別課題 : 各種認証の確実な取得 広報・営業活動の強化 研修及び教育訓練の継続的かつ体系的な実施</p>
<p>認証取得について、電気、化学分析試験等での ISO/IEC17025、動物愛護・福祉での AAALAC の更新は、年度内に全て完了しており、また、医療機器 GLP の認証については、適合試験区分を全身毒性試験、血液適合性試験に拡大して審査を受け、更新している。</p> <p>広報・営業活動の強化については、県内報道機関向けのメディア戦略を積極的に実施し、テレビ・新聞など様々な媒体による報道が大幅に増加している。また、学生向けの見学会や開所以来初めてとなる一般市民向けオープンイベントの開催など、センター認知の機会創出にも積極的に取り組んでいる。</p> <p>また、センターの取組を紹介するアニュアルレポートを初めて作成し、センターの PR や営業等のツールとして使用している。</p> <p>職員の研修等については、外部研修やセミナーを計画的に受講し、受講した内容を内部研修会において報告を行うなど、職員全員の技術力及び意識の向上に取り組んでいる。また、連携協定を結んでいる自治医科大学での技術研修等を行うなど専門性の高い技能向上に努めている。</p>

2 付表1: 公社概要

公社等の名称	一般財団法人ふくしま医療機器産業推進機構					
設立根拠法令	一般社団法人及び一般財団法人に関する法律					
設立年月日	平成25年5月1日					
代表者職氏名	理事長 菊地 眞					
事務所の所在地	郡山市富田町字満水田27番8					
ホームページアドレス	http://www.fmdipa.jp					
県所管部・課	商工労働部次世代産業課 医療関連産業集積推進室					
設立目的	医療機器に関する安全性評価と事業化支援並びに医療従事者等への研修等を通じて、安全で信頼される医療機器の開発及び適正かつ安全な使用の促進を図り、もって医療の安全確保と医療機器産業の発展へ貢献することを目的とする。					
経営理念・目標等	医療機器の安全性評価と事業化支援並びに医療従事者への機器研修等を通じて、安全で信頼される医療機器の開発及び適正かつ安全な使用の促進を図り、もって医療の安全確保と医療機器産業の発展へ貢献します。					
資本金・基本金 (単位: 千円)	H22末	H30末	R1末	R2末	R3末	R4末予定
		3,300	3,300	3,300	3,300	3,300
県出資額 (構成比)		3,000	3,000	3,000	3,000	3,000
		90.9%	90.9%	90.9%	90.9%	90.9%
令和3年度末 出資等内訳 (単位: 千円) ※県分を除く。	出資順位	団体名		出資額		構成比
	1	郡山市		300		9.1%
	2					
	3					
	4					
	5					
主な事業内容 (詳細: 付表2)	<ul style="list-style-type: none"> ○ふくしま医療機器開発支援センターの管理運営 ○医療機器産業に関する交流促進及び取引の支援 ○医療機器開発に関するコンサルティング ○医療機器に関するプロジェクト管理 ○医療機器の安全性に関する情報の収集、整理及び提供 ○医療機器産業に関する人材育成 					

3 付表2:実施事業

1	事業名	ふくしま医療機器開発支援センターの管理運営					継続事業	公益事業
	事業内容	医療機器の開発から事業化までを一体的に支援する国内初の拠点である「ふくしま医療機器開発支援センター」の指定管理者として管理運営を行う。						
	目標							
	事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・利用促進・広報活動 研修室98件、技術開発室 4社 ・ISO/IEC17025更新(2022年2月)、AAALAC更新(2022年2月)、GLP更新申請済 ・安全性評価試験196件 ・医療トレーニング56件・看護トレーニング 17件 						
	事業費 (単位:千円)	H22決算	H30決算	R1決算	R2決算	R3決算	R2/H22	R3/H22
		561,777	627,820	618,519	626,625			
2	事業名	福島県医療福祉機器産業協議会の開催					継続事業	公益事業
	事業内容	会員間の取引拡大と技術基盤の強化を図り、医療福祉機器分野への進出を促進するため、技術交流会や各種セミナーの企画、マッチングの機会の提供などといった、会員相互交流の活性化及び企業人材の育成を実施する。						
	目標	県内のものづくり企業等の医療機器関連産業分野への新規参入の促進及び会員間のネットワークの形成を図る。						
	事業実績	実施回数 3回						
	事業費 (単位:千円)	H22決算	H30決算	R1決算	R2決算	R3決算	R2/H22	R3/H22
		1,225	1,167	1,124	1,248			
3	事業名	メディカルクリエーションふくしま2021の開催					継続事業	公益事業
	事業内容	福島県内外はもとより海外企業も含めた企業・団体が出展し、ものづくり企業の特徴ある製造部品や技術の展示と医療機器メーカーによる最新医療機器の展示を同時に行い、医療機器の開発・改良に向け、活発なビジネスマッチングが行う。						
	目標	医療技術の向上と医療機器産業の発展に貢献できる「医療機器製造・設計ハブ拠点ふくしま」の形成とPRを図る。						
	事業実績	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、「オンライン展示会」として開催し、新しくロングラン方式により長期間に渡り活発な情報交換を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・会期:2021年10月28日、29日(ロングラン方式 2022年2月10日まで) ・出展数:139企業団体 ・来場者数:2,685人(2日間合計)(ロングラン方式 計6,100名) 						
	事業費 (単位:千円)	H22決算	H30決算	R1決算	R2決算	R3決算	R2/H22	R3/H22
		29,458	32,215	24,668	26,013			

4	事業名	ASEAN販路拡大事業					継続事業	公益事業
	事業内容	「医療関連産業集積プロジェクト補助金」により製品化された成果品の販路拡大を図るため、タイ王国で開催される展示会への出展、及びビジネスマッチングを行う。						
	目標	医療関連産業集積プロジェクト補助金の成果品について、今後医療機器市場の拡大が見込まれるASEANでの販路拡大を図る。						
	事業実績	展示会:Health Tech Thailand 2021 への出展(県内7企業)						
	事業費 (単位:千円)	H22決算	H30決算	R1決算	R2決算	R3決算	H30/H22	R1/H22
		20,073	19,523	12,120	11,658			
5	事業名	健康ビジネス創出支援事業					継続事業	公益事業
	事業内容	介護・福祉機器などを開発している福島県内企業各社の販路拡大を支援するため展示会への出展を行う。						
	目標	介護・福祉機器などを開発している福島県内企業の技術や製品の事業化を図る。						
	事業実績	・第8回 国際介護用品展 CareTEX東京への出展(県内4社) ・会期:2022年3月9日~11日						
	事業費 (単位:千円)	H22決算	H30決算	R1決算	R2決算	R3決算	H30/H22	R1/H22
			2,984	1,791	2,129			
6	事業名	ふくしまがつなぐ 医療関連産業新たな「しごと」創出支援事業					新規事業	公益事業
	事業内容	ふくしま医療機器開発支援センターの安全性評価機能又はトレーニング機能等を活用し、県内ものづくり企業への発注が見込まれる医療機器等の開発案件を誘致した上で、県内企業への橋渡しを行う。						
	目標	新規ものづくり企業案件の創出を図るとともに、県内企業が持つ高いものづくり技術を活かし、医療関連産業への新規参入を促進する。						
	事業実績	・企業訪問およびヒアリング:97件 ・品質保証コンサルテーション:3回 ・知財戦略コンサルテーション:2回 ・薬事戦略コンサルテーション:1回 ・マッチング件数:12件(マッチング先企業数19社) ・有望案件誘致件数:7件・安全性評価試験やトレーニング等の実施件数:4件 ・アウトソースが必要なものづくり技術の橋渡し:12件(新規ものづくり案件創出件数9件)						
	事業費 (単位:千円)	H22決算	H30決算	R1決算	R2決算	R3決算	R2/H22	R3/H22
					36,110			

7	事業名	課題解決型医療福祉機器等開発推進事業					新規事業	公益事業
	事業内容	救急・災害及び感染症対策に資する製品開発及び事業化を促進するため、購入者である医療・消防・各機関、販売・製品開発企業などへのヒアリング調査や販路拡大を支援するために本事業補助金により開発した製品の展示会への出展ならびに製品開発促進のためのアドバイスを実施する。						
	目標	県内事業者の救急・災害現場及び感染症対策の課題を解決する医療福祉機器の開発及び販売を促進する。						
	事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・展示会出展4回 ・開発に関するアドバイス 2回 						
	事業費 (単位:千円)	H22決算	H30決算	R1決算	R2決算	R3決算	H30/H22	R1/H22
					9,988			
8	事業名	Step by Step SUPPORT事業(SSS事業)					継続事業	公益事業
	事業内容	開発から事業化までの過程において、市場やニーズの発掘段階、設計・評価、規制等の関係法令・規格など、その段階・状況に合わせた個別支援体制により、実務をサポートする。						
	目標							
	事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・企業からの依頼による個別支援 27件(うち有料19件) 						
	事業費 (単位:千円)	H22決算	H30決算	R1決算	R2決算	R3決算	H30/H22	R1/H22
		1,257	2,124	737	322			
9	事業名	郡山市医工連携事業化参入コンサルティング事業					継続事業	公益事業
	事業内容	郡山市内企業における医療機器分野への参入状況を踏まえ、各企業の技術や参入意欲に沿った支援を行う。						
	目標	郡山市のものづくり企業の医療機器産業への参入を促進する。						
	事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・支援相談窓口事業:24回 ・医療・介護機関と連携した医療機器(関連)産業分野への参入支援事業(ニーズ発掘活動) ・医療機器開発・試験研究支援事業:1案件実施 						
	事業費 (単位:千円)	H22決算	H30決算	R1決算	R2決算	R3決算	H30/H22	R1/H22
		5,754	4,720	3,179	1,566			

10	事業名	魅力を伝えるふくしま医療関連人材育成事業					継続事業	公益事業
	事業内容	医療機器関連産業の一層の集積を促進するため、高校生、大学生、大学院生、企業人等を対象に医療機器の開発者や起業を目指す人材の育成を行う。						
	目標	新規参入や参入初期段階の企業の従業員の開発から事業化に必要な知識の習得を図る。						
	事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・MBLコース(高度研究開発者ビジネスコース): 受講者6名(社会人3名、福島大学院生1名、日本大学院生1名、会津大学院生1名) ・医療のしごと体験デー(学生56名、教員12名、保護者8名) ・オンラインインターンシップ(学生190名、教員14名) ・新規参入実践サポートセミナー(35名) ・フィールドワーク(福島県立福島高等学校、福島県立郡山北工業高等学校、福島県立喜多方桐桜高等学校) 						
事業費	H22決算	H30決算	R1決算	R2決算	R3決算	H30/H22	R1/H22	
(単位:千円)		15,584	18,626	15,517	19,677			
11	事業名	医療施設用ロボット導入モデル事業					継続事業	公益事業
	事業内容	福島県内の医療施設において最先端の医療施設用ロボット等を導入することにより、在宅医療を含めた医療現場での効果的なロボットの運用方法および具体的な活用方法の検証を行う。						
	目標	医療用ロボットの普及・利用促進をすることにより、医療用ロボット産業の集積を図る。						
	事業実績	運用検証 <ul style="list-style-type: none"> ・WALK-MATE ROBOT 3施設 ・アクティブ歩行器 1施設 ・マッスルスーツ®機能訓練モデル 3施設 導入支援 <ul style="list-style-type: none"> ・11施設/14台 						
事業費	H22決算	H30決算	R1決算	R2決算	R3決算	H30/H22	R1/H22	
(単位:千円)		33,382	41,182	43,771	31,019			
12	事業名	介護支援用ロボット導入促進事業					継続事業	公益事業
	事業内容	福島県内での介護支援用ロボットの普及による介護職員の負担軽減と同関連産業の集積を図るため、高齢者介護施設が介護支援用ロボットを導入する費用の一部補助を行う。						
	目標	介護支援用ロボットの普及・利用促進をすることにより、介護支援用ロボット産業の集積を図る。						
	事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・HAL®腰タイプ介護・自立支援用 1施設2台の費用補助、20施設無償貸与 ・腰補助用マッスルスーツ®: 6施設14台の費用補助、19施設貸与 ・定期訪問調査、研修会の実施 ・男女共生センターにおいて常設展示及び装着体験サポート ・介護福祉士養成校への介護支援用ロボットの無償貸与: 7校21台 						
事業費	H22決算	H30決算	R1決算	R2決算	R3決算	H30/H22	R1/H22	
(単位:千円)		27,981	29,699	34,177	27,842			

13	事業名	医療機器重点分野等開発促進事業					新規事業	公益事業
	事業内容	有望な開発案件を本県に集積するとともに、県内企業の技術がいかされる量産に向けたものづくり段階への移行を促進し、新たな仕事の創出につなげるため、案件創出事業や共同相談等を実施する。						
	目標	重点分野等に関する評価試験の実績を蓄積し、県内ものづくり企業における案件の集積を促進する						
	事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・共同相談 薬事戦略 2件 事業化相談 10件 ・有望開発案件創出事業 17件 ・セミナー開催 3回 ・展示会への出展 3回 						
	事業費 (単位:千円)	H22決算	H30決算	R1決算	R2決算	R3決算	H30/H22	R1/H22
					48,906			
14	事業名	浜通り地域等医療・福祉機器導入モデル事業					継続事業	公益事業
	事業内容	浜通り地域等の企業が開発した医療・福祉機器を当地域の医療施設や高齢者福祉施設、また事業所等が導入することを支援し、モデル事業として広くPRすることにより、企業の販路拡大と参入・誘致の促進を図る。						
	目標	開発から販売までのビジネスを確立し、当地域における医療関連産業の集積につなげていく。						
	事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・現場ニーズを反映させた製品の改良など導入に向けた支援の実施 3件 ・機器改良支援:2社 ・モデル事業のフォローアップ、成功事例のPR ・展示会出展支援 1回 						
	事業費 (単位:千円)	H22決算	H30決算	R1決算	R2決算	R3決算	H30/H22	R1/H22
				27,717	32,713			

15	事業名	地域連携拠点自立化推進事業					新規事業	公益事業
	事業内容	AMED医工連携イノベーション推進事業の採択を受け、本事業では、東北各地域の支援担当者が参画する「東北医療機器開発／事業化人材オープン・シェア革命推進タスクフォース」を設置し、センター（連携機関を含む）が中心となり、東北全域における企業群で試作開発を迅速且つ確実に分担し、試作企業選定の最適化を図り事業化を進めていくモデル構築を研究する。						
	目標	本研究においては、医療ニーズ起点の医療機器の開発を目的とし、医療現場を取り巻く様々な課題やニーズの探索を行っていく。 東北大学病院をはじめ福島県立医科大学附属病院等からニーズ収集を行い、見出した開発ターゲットをプロトタイプ製作へ橋渡しするため、東北各地域のコーディネータと協働してマッチングを実施し開発支援を行っていくことで、医療機器開発エコシステムを構築していく。 併せて、開発途中で断念したり市場へ展開できなかったケースの製品コンセプトを再構築して再開発を行う案件や既存製品の改善・改良案件等のニーズ収集にも取り組んでいく。 AMED等医療機器開発補助金申請数:3件						
	事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・東北医療機器開発/事業化人材オープン・シェア革命推進タスクフォース設置・運営 3回 (AI/プログラム医療機器合同勉強会含む) ・ニーズ発掘・見極め 新規開発案件6件 (ふくしま医工連携セッション、製品コンセプト検討委員会の開催) ・東北技術マップの制作 1件 ・マッチング 18件 ・試作開発支援 3件 						
	事業費	H22決算	H30決算	R1決算	R2決算	R3決算	R2/H22	R3/H22
(単位:千円)					8,174			

4 付表3:経営状況

区 分		H22決算	H30決算	R1決算	R2決算	R3決算	R2/H22	R3/H22
収 支 の 状 況	① 収入		880,566	1,014,164	1,077,298	1,159,442	-	-
	当期収入合計		842,288	961,447	1,006,839	1,053,073	-	-
	うち基本財産運用収入		1	0	0	0	-	-
	うち事業収入		149,495	181,254	209,311	156,175	-	-
	うち補助金等(補助金・負担金・交付金・委託料等)		692,289	779,676	797,092	895,611	-	-
	うち借入金		0	0	0	0	-	-
	うち特定預金取崩		503	517	436	1,287	-	-
	前期繰越収支差額 ^{※1}		38,278	52,717	70,459	106,369	-	-
	② 支出		815,641	929,238	943,724	946,495	-	-
	うち人件費総額		297,981	315,174	331,612	366,032	-	-
うち人件費総額管理費(除人件費)		6,641	7,817	8,891	9,863	-	-	
うち事業費(除人件費)		511,019	606,247	603,221	570,600	-	-	
③ 当期収支差額 ^{※2}		26,647	32,210	63,115	106,579	-	-	
④ 次期繰越収支差額 ^{※1}		40,470	53,189	89,835	154,687	-	-	
財 産 の 状 況	① 資産		310,469	357,651	343,537	442,875	-	-
	流動資産		261,897	288,935	257,041	334,257	-	-
	固定資産		48,572	68,716	86,496	108,618	-	-
	② 負債		254,452	283,891	233,868	270,572	-	-
	流動負債		221,427	235,745	167,206	179,570	-	-
	うち借入金		0	0	0	0	-	-
	固定負債		33,025	48,146	66,662	91,002	-	-
	うち借入金		0	0	0	0	-	-
③ 正味財産		56,017	73,759	109,669	172,303	-	-	
うち当期増減額		14,439	17,742	35,910	62,634	-	-	

5 付表4:経営分析

区 分	H22決算	H30決算	R1決算	R2決算	R3決算	R2/H22	R3/H22
①公益事業比率		100%	100%	100%	100%	-	-
支出額計		771,774	880,618	892,214	883,990	-	-
公益事業支出額		771,774	880,618	892,214	883,990	-	-
収益事業支出額		0	0	0	0	-	-
②直営事業比率		86.9%	85.4%	85.9%	85.3%	-	-
支出額計		771,774	880,618	892,214	883,990	-	-
直営事業支出額		670,727	751,613	766,523	754,359	-	-
再委託事業支出額		101,047	129,005	125,691	129,631	-	-
③自主事業比率 (自主事業／支出額計)		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	-	-
④施設等利用人数 (行政客体)						-	-
⑤施設等稼働率						-	-
⑥補助金等(補助金・負担金・交付金・委託料等)比率 (補助金等額／当期収入合計)		82.2%	81.1%	79.2%	85.0%	-	-
⑦流動比率 (流動資産／流動負債)		118.3%	122.6%	153.7%	186.1%	-	-
⑧管理費比率 (管理費／支出額計)		5.4%	5.2%	5.5%	6.6%	-	-
⑨人件費比率 (人件費／支出額計)		36.5%	33.9%	35.1%	38.7%	-	-
⑩借入金比率 (借入金／資産)		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	-	-
⑪一人当たりの人件費 (人件費／総職員)		5,321	5,434	6,256	6,655	-	-
⑫一人当たりの事業収入 (事業収入／総職員)		15,041	16,577	18,997	19,147	-	-
⑬補助金等(補助金・負担金・交付金・委託料等)に含まれる人件費比率(人件費／補助金等)		43.0%	40.4%	41.6%	40.9%	-	-
⑭事業収入に含まれる人件費比率(人件費／事業収入)		35.4%	32.8%	32.9%	34.8%	-	-

5 付表4-2:経営分析

⑬長期借入金の状況	(令和3年決算の内訳)		(単位:千円)
借入先	金額	目的	返済予定
	利率		

6 付表5:組織人員体制

1 役職員の状況

(単位:人)

区分	H22末	H30末	R1末	R2末	R3末	R4(4/1)	R3/H22	R4/H22	
役員 (監事含む)	常勤役員	0	1	1	1	2	2	-	-
	プロパー							-	-
	民間		1	1	1	1	1	-	-
	県OB					1	1	-	-
	県現職派遣							-	-
	その他							-	-
	非常勤役員	0	10	10	10	9	9	-	-
	民間		8	8	8	7	7	-	-
	県OB		1	1	1	1	1	-	-
	県現職		1	1	1	1	1	-	-
	その他							-	-
合計	0	11	11	11	11	11	-	-	
職員	常勤職員	0	32	34	35	38	39	-	-
	プロパー		30	31	31	34	35	-	-
	民間							-	-
	県OB							-	-
	県現職派遣		2	3	3	4	4	-	-
	その他				1			-	-
	非常勤職員	0	20	22	22	21	20	-	-
	有期雇用職員 (嘱託員)		16	13	11	13	15	-	-
	有期雇用職員 (臨時職員)		4	9	9	6	5	-	-
	人材派遣				2	2		-	-
	その他							-	-
合計	0	52	56	57	59	59	-	-	

2 職員の年齢構成 (令和4年7月1日現在)

(単位:人)

区分	~30歳	31~35	36~40	41~45	46~50	51~55	56~60	61~
管理職員	プロパー							
	民間							
	県OB							
	県現職派遣					1	1	
	その他							
	合計	0	0	0	0	1	1	0
一般職員	プロパー	4	6	6	4	8	3	4
	民間							
	県OB							
	県現職派遣		1	1				
	その他							
	合計	4	7	7	4	8	3	4
総計	4	7	7	4	9	4	4	0

7 付表6: 県の関与状況

区分		H22決算	H30決算	R1決算	R2決算	R3決算	R4当初	R3/H22	R4/22
財政的関与	①補助金等	0	676,205	773,176	793,712	883,009	897,860	-	-
	補助金		60,375	65,387	67,347	78,158	81,692	-	-
	負担金							-	-
	交付金							-	-
	委託料		182,421	236,480	275,680	277,780	337,123	-	-
	指定管理料		433,409	471,309	450,685	527,071	479,045	-	-
	②貸付金								-
③損失補償額(契約額)								-	-
④債務保証額(契約額)								-	-
人的関与	⑤役員就任(監事を除く)	0	2	2	2	3	3	-	-
	常勤役員	0	0	0	0	1	1	-	-
	県OB					1	1	-	-
	県現職派遣							-	-
	上記以外の職員							-	-
	非常勤役員	0	2	2	2	2	2	-	-
	三役							-	-
	部局長							-	-
	県OB		1	1	1	1	1	-	-
	上記以外の職員		1	1	1	1	1	-	-
	⑥監事就任	0	0	0	0	0	0	-	-
	三役							-	-
	部局長							-	-
	上記以外の職員							-	-
	⑦評議員就任	0	1	1	1	1	1	1	-
部局長		1	1	1	1	1	1	-	-
上記以外の職員								-	-
⑧職員派遣	0	3	3	4	4	4	4	-	-
管理職員		1	1	1	2	2	2	-	-
一般職員		2	2	3	2	2	2	-	-

8 別紙1

区分	名 称	R3決算額
	補助等の目的	(単位:千円)
補助金	ふくしま医療機器産業推進機構事業運営事業 医療機器の開発・安全対策、事業化支援事業を行う一般財団法人ふくしま医療機器産業推進機構の運営を支援することにより、医療機器産業の推進を図る。	57,311
	ふくしま医療機器産業ハブ拠点形成事業 医療福祉機器産業に係る展示会を開催することにより、医療福祉機器製造販売企業と県内の製造企業のマッチングを促進し、医療福祉機器産業の集積を図る。	20,847
	補助金額合計	78,158
負担金		
交付金		
委託料	健康ビジネス創出支援事業 成功事例を作り出し、県内での健康ビジネス産業の創出、拡大を図るため、健康ビジネスに特化した展示会に県内企業と共に出展し、県内企業の販路拡大支援を行う。	3,723
	医療機器重点分野等開発促進事業 有望な開発案件を本県に集積するとともに、県内企業の技術がいかされる量産に向けたものづくり段階への移行を促進し、新たな仕事の創出につなげる。	53,647
	医療関連産業新たな「しごと」創出支援事業 ふくしま医療機器開発支援センターの安全性評価機能又はトレーニング機能等を活用し、県内ものづくり企業への発注が見込まれる医療機器等の開発案件を誘致した上で、県内企業への橋渡しを行い、新規ものづくり企業案件の創出を図るとともに、県内企業が持つ高いものづくり技術を活かし、医療関連産業への新規参入を促進する	49,619
	課題解決型医療福祉機器等開発推進事業 県内事業者が救急・災害現場及び感染症対策の課題を解決する医療福祉機器の開発及び販売を促進する	19,893
	ふくしま医療機器産業ハブ拠点形成事業 医療機器産業ハブ拠点形成を着実に進展させるため、福島県医療福祉機器産業協議会の運営を行う。	1,253
	魅力を伝えるふくしま医療関連産業人材育成事業 医療機器関連産業の一層の集積を促進するため、高校生、大学生、大学院生、企業人等を対象に医療機器の開発者や起業を目指す人材の育成を行う。	28,218
	医療施設用ロボット導入モデル事業 福島県内の医療施設において最先端の医療施設用ロボット等を導入することにより、在宅医療を含めた医療現場での効果的なロボットの運用方法および具体的な活用方法の検証を行う。	34,096
	介護ロボット導入促進事業 高齢者介護施設等に介護支援ロボットを導入することにより、介護職員の労働負担軽減、離職防止や定着かを図ると共に、県内企業発ロボットの導入・普及	30,626

8 別紙1

区分	名 称	R3決算額
	補助等の目的	(単位:千円)
	チャレンジふくしま成長分野産業グローバル展開事業 医療関連産業集積プロジェクト補助金の成果品について、今後医療機器市場の拡大が見込まれるASEANでの販路拡大を図る。	14,361
	浜通り地域等医療・福祉機器導入モデル事業 浜通り地域等の企業が開発した医療・福祉機器等を問う地域の医療施設や高齢者福祉施設、事業所等とともに売れる製品へ改良する取組や施設等への導入を支援し、また、モデル事業として広くPRすることにより、企業の販路拡大と参入・誘致を図る。	42,344
	委託料額合計	277,780
指定管理料	ふくしま医療機器開発支援センター運営事業 医療機器の安全性評価を始め、企業等のマッチングやコンサルティング、医療従事者のトレーニング等を総合的に実施し、医療機器開発から事業化までを一体的に支援する。	527,071
貸付金		
損失補償額		
	損失補償額合計	0
債務保証額		
	債務保証額合計	0

9 別紙2 役員の状況

令和4年6月末現在

区分	定数	氏名	常勤・非常勤の別	職名	当初就任日	
					現任期満了日	
理事長	1名	菊地真	非常勤	公益財団法人 医療機器センター理事長	H25.5.1 R5年度にかかる評議員会の日	
副理事長	1名	小林利彰	常勤	一般財団法人 ふくしま医療機器産業推進機構 副理事長	R3.4.1 R5年度にかかる評議員会の日	
専務理事	1名	宮村安治	常勤	一般財団法人 ふくしま医療機器産業推進機構 専務理事	R3.4.1 R5年度にかかる評議員会の日	
常務理事						
理事	3名 以上 10名 以内 (理事 長及び 専務理 含む)	三澤裕	非常勤	一般社団法人 日本医療機器テクノロジー協会 専務理事	H25.5.1 R5年度にかかる評議員会の日	
		安原洋	非常勤	一般社団法人 日本医療機器学会理事	H25.5.1 R5年度にかかる評議員会の日	
		野地誠	非常勤	公益財団法人 福島県産業振興センター 専務理事	R3.4.1 R5年度にかかる評議員会の日	
		吉川睦	非常勤	会津オリンパス株式会社 技術製造統括取締役	H31.4.26 R5年度にかかる評議員会の日	
		湯本武夫	非常勤	リズム株式会社 取締役副社長執行役員	H25.5.1 R5年度にかかる評議員会の日	
		高橋和司	非常勤	福島県商工労働部 次長(産業振興担当)	R4.4.1 R5年度にかかる評議員会の日	
監事	2名 以内	軒澤力	非常勤	株式会社AGSコンサルティング 名誉顧問	H25.5.1 R7年度にかかる評議員会の日	
		山口哲蔵	非常勤	郡山商工会議所副会頭	R3.6.24 R7年度にかかる評議員会の日	